

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～ 組

教科担当者：（A組：葉師咲子）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（『高等学校 新編言語文化』（第一学習社））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
			話・聞	書	読						
1 学 期	A単元 小説を読む(一) 【知識及び技能】 常用漢字の基本的な読み書きを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 主人公の心情の移り変わりや周囲との関係の変化に着目して本文を読解する。 【学びに向かう力、人間性等】 物語の読解を通して、他者との関わり方や自分自身の学校生活について考える。	・「よろこびの歌」 (宮下奈都) ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用		○	○	【知識及び技能】 常用漢字の基本的な読み書きを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 本文中の表現を根拠として登場人物の心情や人物相互の関係性を分析することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物語の読解を通して、他者との関わり方や自分自身の高校生活について考える機会としている。		○	○	○	4
	B単元 小説を読む(二) 【知識及び技能】 常用漢字の基本的な読み書きを理解する。語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 物語の設定とその効果を分析しながら、登場人物の心情の移り変わりを読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 物語の読解を通して、人間のあり方について考察するとともに、文学作品に対する興味・関心を高める。	・「羅生門」(芥川龍之介) ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用		○	○	【知識及び技能】 常用漢字の基本的な読み書きを理解している。語句の量を増やし、語彙を豊かにしていくことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 物語の設定とその効果を、登場人物の心情・行動の変化と関連させて分析することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物語の読解を通して、人間のあり方について考察するとともに、文学作品に対する興味・関心をもつことができる。		○	○	○	8
	C単元 古文入門 【知識及び技能】 歴史的仮名遣いのきまりや古文文法の基礎を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代の言葉と古文の違いを意識しながら、内容を正しく読み取らせる。 【学びに向かう力、人間性等】 古文と現代の言葉のつながりや違いを理解して、作品を読解しようとする姿勢を育む。	・「古文の学習」、 「鳩と蟻のこと」 ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用		○	○	【知識及び技能】 歴史的仮名遣いのきまりや古文文法の基礎を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代の言葉と古文の違いを意識しながら、現代語訳をふまえて内容を正しく読み取ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 古文と現代の言葉のつながりや違いを理解して、古文に親しもうとしている。		○	○	○	3
	定期考査							○	○		1
	D単元 古文に親しむ 【知識及び技能】 歴史的仮名遣いのきまりや古文文法の基礎、古文常識を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物の心情や行動を本文中の表現を根拠に読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 物語の読解を通して、古文作品や古文常識に興味・関心をもつことができる。	・「児のそら寝」、 「なよ竹のかぐや姫」 ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用		○	○	【知識及び技能】 歴史的仮名遣いのきまりや古文文法の基礎、古文常識を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代の言葉と古文の違いを意識しながら、現代語訳をふまえて内容を正しく読み取ることができる。登場人物の心情や行動を本文中の表現を根拠に読み取ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 古文と現代の言葉のつながりや違いを理解して、古文に親しもうと活動に取り組んでいる。		○	○	○	6
	E単元 物語を楽しむ 【知識及び技能】 重要な古文単語、和歌の修辞を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 和歌と地の文の内容を組み合わせて本文を読解し、登場人物の心情を読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 物語の読解を通して、古文に親しみ、現代・古文の人々に共通する価値観について考えようとしている。	・「伊勢物語 筒井筒」 ・教科書、授業プリント ・ICTの活用		○	○	【知識及び技能】 重要な古文単語、和歌の修辞を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 和歌と地の文の内容を組み合わせて、登場人物の心情や行動を読み取り、分析することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代・古文の人々に共通する価値観について考え、自分自身の考えを深めようとしている。		○	○	○	5
	定期考査							○	○		1

2 学 期	F単元 漢文入門 【知識及び技能】 漢文訓読の基礎を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 古文と漢文の共通点・相違点をふまえて、書かれている内容を正しく読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 古文や現代の言葉への影響やつながりについて考え、語句や表現に興味をもつ。	・「漢文の学習」、 「訓読に親しむ (一)」、「漢文に親 しむ(二)」 ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用	○	○	○	○	○	○	○	5	
	G単元 故事成語 【知識及び技能】 漢文訓読の基礎を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 語句の由来や登場人物の言動を分析し、現代にも通じる考え方や価値基準について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 故事成語に興味・関心をもつとともに、自分自身の語彙や表現を豊かにする。	・「五十歩百歩」、 「矛盾」 ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	7
	定期考査										1
	H単元 小説を読む(三) 【知識及び技能】 常用漢字の基本的な読み書きを理解する。語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 物語の設定とその効果を分析しながら、登場人物の心情の移り変わりを読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 物語の読解を通して、人間のあり方について考察するとともに、文学作品に対する興味・関心を高める。	・「よだかの星」(宮 沢賢治)、「鏡」(村 上春樹) ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	8
3 学 期	H単元 随筆を読む 【知識及び技能】 重要な古文単語、古文常識を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 作者の観察眼や美意識に基づく表現をふまえて、情景や状況をイメージしながら本文を読み取り分析する。 【学びに向かう力、人間性等】 古文の世界の人々の価値観や美意識に触れ、現代における常識やものの見方との共通点・相違点に対する興味・関心を高める。	・「枕草子 春はあけ ほの」 ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用	○	○	○	○	○	○	○	5	
	定期考査										1
	J単元 伝統と文化 【知識及び技能】 常用漢字の基本的な読み書きを理解する。語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 内容を効果的に伝えるための工夫に着目しながら本文を読解する。 【学びに向かう力、人間性等】 文章の読解を通して、我が国の伝統行事について興味・関心をもつ。	・「祭りと笛」(三浦 哲郎) ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	5
	J単元 和歌と俳諧 【知識及び技能】 和歌と俳諧(俳句)の違い、文学理念を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 背景知識をふまえて本文を読み取り、作者の人生観や美意識を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 作者の人生観や美意識をふまえて、自分自身の考えや価値観を深めたり広げたりしようとしている。	・「奥の細道 旅立 ち」 ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	6
K単元 漢詩の鑑賞 【知識及び技能】 漢詩のきまりの基礎を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 限られた字数の中で表現されている情景や心情を、背景知識と関連させて読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 古文や現代の言葉・表現に与えた影響をふまえ、漢詩作品に親しもうとしている。	・「唐詩の世界 春暁 静夜思」 ・教科書、授業プリント ・ICT機器の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	3	
定期考査										1	
合計										70	

高等学校 令和5年度（2学年用）教科

地理歴史科 科目 歴史総合

教科：地理歴史科 科目：歴史総合

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 A組～組

教科担当者：（A組：川田 真一）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（ 私たちの歴史総合 ）

教科 地理歴史科 の目標：

【知識及び技能】 地理的・歴史的な事象の意義や特色の関連や差異を考察し、社会の諸課題を理解することで、その解決に向けた社会的な見方・考え方を養う。

【思考力、判断力、表現力等】 地理的・歴史的諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や地理的・歴史的な基本原理を活用して、事象を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、それをもとに議論し、表現する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史の諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究し、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の地理的特徴や歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを利用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>【知識・技能】 生徒の身の回りの出来事や日本における諸事象が世界と関連していることを理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 様々な歴史的現象が日本や世界に与えた影響について考察し、それを表現する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的な事象に対して主体的に、諸資料に基づき考察できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生活と歴史とのかかわりについて</li> <li>身近なスポーツ等を基にして歴史と生活を関連付ける</li> <li>教科書と授業プリント</li> <li>ICTの活用</li> </ul>	<p>【知識・技能】 日本と世界の歴史をスポーツ等を基に、日本と世界の歴史がつながっていることを理解しているとともに、諸資料を活用している。</p> <p>【思考・判断・表現】 歴史的現象が与えた影響について世界と日本の関連性を考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 世界と日本の歴史について主体的に追求しようとしている。</p>	○	○	○	2
<p>【知識・技能】 18世紀から19世紀にかけての変化する世界で起きた歴史的現象が日本に与えた影響を理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 近代化に伴う貿易や産業構造等の社会の変化や、各国の市民たちの生活に関する変化を諸資料に基づき、多面的・多角的に考察し、それを表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>18世紀から19世紀にかけての産業と人口、貿易などの世界の構造の変化</li> <li>世界の構造の変化に影響を受けた日本の歴史について</li> <li>教科書と授業プリント</li> <li>ICTの活用</li> </ul>	<p>【知識・技能】 18世紀から19世紀にかけての変化する世界で起きた歴史的現象が日本に与えた影響を理解するとともに、それらに関連する諸資料を活用している。</p> <p>【思考・判断・表現】 近代化に伴う貿易や産業構造等の社会の変化や、各国の市民たちの生活に関する変化を諸資料に基づき、多面的・多角的に考察し、それを表現している。</p>	○	○		33
<p>【知識・技能】 世界の構造が変化し、新たな国家が誕生したことによる世界と日本の変化を理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 世界の諸変化や日本への影響を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 国際社会の変化や、第一次世界大戦の経過と世界に与えた影響を自ら進んで追及する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際関係の緊密化、アメリカやソ連の台頭、植民地の独立</li> <li>第一次世界大戦</li> <li>世界の影響を受けた日本の動向と第一次世界大戦への参戦</li> <li>世界や日本の動向に影響を受けた市民生活</li> <li>教科書と授業プリント</li> <li>ICTの活用</li> </ul>	<p>【知識・技能】 世界の構造が変化し、新たな国家が誕生したことによる世界と日本の変化を理解しているとともに諸資料を活用している。</p> <p>【思考・判断・表現】 世界の諸変化や日本への影響を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 国際社会の経過と世界に与えた影響を自ら進んで追及しようとしている。</p>	○	○	○	20
<p>【知識・技能】 世界恐慌から第二次世界大戦への動向と戦後の新しい国際秩序について理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 世界恐慌から第二次世界大戦が世界に与えた影響と、日本との関連性について考察し、表現する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 第二次世界大戦が発生した原因を自ら進んで追及する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界恐慌から第二次世界大戦への展開、第二次世界大戦中の経過</li> <li>第二次世界大戦後の国際秩序の変化と多様な大衆化について</li> <li>教科書と授業プリント</li> <li>ICTの活用</li> </ul>	<p>【知識・技能】 世界恐慌から第二次世界大戦への動向と戦後の新しい国際秩序について理解できている。</p> <p>【思考・判断・表現】 世界恐慌から第二次世界大戦が世界に与えた影響と、日本との関連性について考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 第二次世界大戦が発生した原因を自ら進んで追及している。</p>	○	○	○	26
<p>【知識・技能】 冷戦の展開や、それに伴う国際構造の変化・科学技術の発展・核兵器の開発などを相互に関連付け、理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 冷戦構造の世界と日本に与えた影響を考察し、表現する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 戦後の国際秩序が現代社会に与えた影響について追及している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷戦構造下での国際関係や科学技術の発展と核兵器をめぐる問題について</li> <li>教科書と授業プリント</li> <li>ICTの活用</li> </ul>	<p>【知識・技能】 冷戦の展開や、それに伴う国際構造の変化・科学技術の発展・核兵器の開発などを相互に関連付け、理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 冷戦構造の世界と日本に与えた影響を考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 戦後の国際秩序が現代社会に与えた影響について追及している。</p>	○	○	○	12
<p>【知識・技能】 冷戦終結後の世界と日本の動向について理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 冷戦終結が影響する現代の諸課題について資料に基づき、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 現代の諸課題を歴史的な見方・考え方にに基づき、主体的に追及する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷戦の終結と自由化、地域統合と現代の諸課題について</li> <li>教科書と授業プリント</li> <li>ICTの活用</li> </ul>	<p>【知識・技能】 冷戦終結後の世界と日本の動向について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 冷戦終結が影響する現代の諸課題について資料に基づき、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 現代の諸課題を歴史的な見方・管変え方に基づき、主体的に追及できている。</p>	○	○	○	10
合計						103





高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 組～組

教科担当者：（A組：尾高、都竹（組：）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（現代高等保健体育）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】運動をとおして体を動かす楽しさや心地よさを味わい目的に適した運動の計画に取り組むことができる。

【思考力、判断力、表現力等】自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
体を動かす楽しさや心地よさを深く味わうことができるよう、体力などの違いに配慮しようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、健康・安全を確保して、学習に主体的に取り組む。	生涯にわたって運動を豊かにし継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、後世に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 体づくり運動 【知識及び技能】体の仕組みを理解し、目的に適した運動を選択することができる。 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたって運動を豊かにし継続するための課題を発見することができる。 【学びに向かう力、人間性等】互いに助け合おうとすること、一人ひとりの違いに応じた動きを大切にすることができる。	○体づくり運動 ・体幹トレーニング ・ヨガ ・筋力トレーニング	【知識・技能】自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための運動の行い方について言ったり書きだしたりしている。 【思考・判断・表現】生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案している。 【主体的に学習に取り組む態度】体づくり運動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	B 卓球 【知識及び技能】ラリーの中で状況に応じて打ち返す位置を変化させたり、相手の打った球に応じて適切に打ち返すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。 【学びに向かう力、人間性等】相手を思いやり、相手のペースに合わせた球を返すことができる。	○卓球 ・ラケット操作 ・打ち方の指導 ・ルールについて ・スキルテスト ・ゲーム	【知識・技能】球を相手側のコートの守備のいない空間に強弱や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 【思考・判断・表現】自己の課題を見つけ、改善するための練習の計画を立てている。 【主体的に学習に取り組む態度】学習に主体的に取り組もうとしているとともに、相手を思いやる行動をしている。	○	○	○	6
	C バドミントン 【知識及び技能】状況に応じたラケット操作によって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】球技に主体的に取り組むとともにフェアなプレイを大切にしようとする。	○バドミントン ・ラケット操作 ・打ち方の指導 ・ルールについて ・スキルテスト ・ゲーム	【知識・技能】シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 【思考・判断・表現】仲間や自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。 【主体的に学習に取り組む態度】学習に主体的に取り組もうとしているとともに、フェアなプレイを大切にしようとしている。	○	○	○	6
	D 体育理論 【知識及び技能】スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】生涯を通してスポーツを継続するとともに明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	○体育理論 ・文化としてのスポーツ ・スポーツにおける技能と体力	【知識・技能】生涯を通じたスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えていく。 【主体的に学習に取り組む態度】運動の主体的、合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	○			2

2 学 期	E バレーボール 【知識及び技能】勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わうことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】チームや自己の課題を発見し、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることや互いに助け合い高め合おうとすることができるようにする。	○バレーボール ・バスの種類について ・サーブについて ・ルールについて ・スキルテスト ・ゲーム	【知識・技能】仲間と運動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 【思考・判断・表現】チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。 【主体的に学習に取り組む態度】作戦などを話し合う場面、合意形成に貢献しようとしている。	○	○	○	6
	F バasketボール 【知識及び技能】チームや自己の課題を解決したり勝敗を競ったりするなど仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】バスやシュートの種類について理解を深め、その場に適した状況判断をしている。 【学びに向かう力、人間性等】仲間の良さを認め、フェアなプレイを大切にしようとしている。	○Basketボール ・バス、シュートの種類について ・ルールについて ・スキルテスト ・ゲーム	【知識・技能】味方が取りやすいパスを出したり、空間に走りこんだりして得点につながる動きをしている。 【思考・判断・表現】適切な状況判断をするために、仲間の動きや相手の動きをよく見て考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】チームに貢献し、フェアなプレイを大切にしようとしている。	○	○	○	7
	G アルティメット 【知識及び技能】ディスクの扱いに慣れ、自分の投げたいところに投げることができる。 【思考力、判断力、表現力等】バスの名称を覚えるとともに、ルールや名称について言ったり書きだしたりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】互いに助言し合うなど、相手を思いやる行動をしている。	○アルティメット ・ディスクの持ち方について ・ルールについて ・スキルテスト ・ゲーム	【知識・技能】状況に応じてパスを使い分け、空間に走りこむなどして得点につながる動きをしている。 【思考・判断・表現】ルールを正しく理解したうえで状況判断をしながらプレーしている。 【主体的に学習に取り組む態度】仲間を助言するなど協力的に行動し、フェアなプレイを大切にしている。	○	○	○	7
3 学 期	H 持久走 【知識及び技能】自己に適したペースを維持して後半まで走り続けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】呼吸を楽にしたり、走りのリズムをつくったりする呼吸法を言ったり書きだしたりできる。 【学びに向かう力、人間性等】仲間に声をかけ、鼓舞することができる。	○持久走 ・15分間走 ・タイムトライアル	【知識・技能】自己に適したペースを見つけたとともに、走り方を工夫し最後まで継続することができる。 【思考・判断・表現】走り方や呼吸の仕方について理解を深め、言ったり書きだしたりできる。 【主体的に学習に取り組む態度】仲間と励まし合いながら授業に取り組むことができる。	○	○	○	7
	I サッカー 【知識及び技能】ゴールの枠内にシュートをコントロールしたり、相手に適切なパスを出すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】体力や技能の程度、性別などの違いに配慮して活動している。 【学びに向かう力、人間性等】一人一人に応じた課題を理解し、協力的に取り組んでいる。	○サッカー ・基本動作について ・ルールについて ・スキルテスト ・ゲーム	【知識・技能】味方が操作しやすいパスを出したり、ゴールの枠内にシュートしたりすることができる。 【思考・判断・表現】体力や技能の程度、性別などの違いに配慮して、仲間と楽しむ方法を見つけている。 【主体的に学習に取り組む態度】一人一人に応じた課題を理解し、協力的に取り組んでいる。	○	○	○	6
合計							53





高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 芸術 科目 音楽 I

教科：芸術 科目：音楽 I 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年

教科担当者：（ 菊池 信隆 ）

使用教科書：（ 音楽之友社 ON I ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術に関する科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
・オリエンテーション ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解を深め、歌唱に対する意識をも、発声の基本や視唱（読譜）の力を育みながら、楽曲に合った歌唱法の工夫をする。	・呼吸や口の形など発声の基本を学習する。 ・歌うことの楽しさを感じる。 ・楽譜を見て歌う力（視唱・読譜）を養う。	・曲想と歌詞との関わりについて理解しているか。	○	○	○	6
・日本語の美しさを感じ取り、発音に注意をしながら、歌詞の内容や曲想を理解し、楽曲にふさわしい表現の工夫をして歌う。	・日本語（歌詞）の発音（鼻濁音、子音など）に注意して歌う。	・曲想と歌詞や楽曲の背景との関わりについて理解しているか。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉（歌詞）の発音などの技能を身につけているか。	○	○	○	8
・長唄の特徴を理解し、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くとともに、我が国の伝統的な音楽に親しむ心情を養う。	・長唄の特徴と文化的・歴史的背景について理解する。 ・歌舞伎について学習する。 ・西洋音楽との共通点や違いについて考える。	・長唄の特徴と文化的・歴史的背景について理解したか。 ・歌舞伎について学習できたか。 ・西洋音楽との共通点や違いについて考えられたか。	○	○	○	10
・イタリア語の発音の特徴をとらえて、リズム・旋律・ハーモニーの関わりを理解し、歌う。	・イタリア語の発音の特徴を理解する。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。 ・楽曲にあるリズム、旋律、ハーモニーの関わりを理解する。	・イタリア語の発音は原則ローマ字読みであるが、違う部分もあることを理解できたか。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌えるか。 ・楽曲にあるリズム、旋律、ハーモニーの関わりを理解したか。	○	○	○	4

2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドイツ語の発音の特徴(子音、ウムラウトなど)、言葉のリズムと旋律との関わりを理解し、表現の工夫をして歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドイツ語の発音の特徴を理解する。</li> <li>ドイツ語の言葉(歌詞)のリズムとメロディーの関わりを理解する。</li> <li>歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドイツ語の発音の特徴を理解したか。</li> <li>ドイツ語の言葉(歌詞)のリズムとメロディーの関わりを理解したか。</li> <li>歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌っているか。</li> </ul>	○	○	○	8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>舞台作品としてのミュージカル(映画)の物語の内容、それぞれのナンバーを歌う登場人物の心情、曲想と歌詞の関わりを理解して、表現の工夫をして歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの作品を鑑賞し、物語の内容、登場人物の心情を理解する。</li> <li>リズムと旋律の関わりを理解し、互いに歌い、曲想や歌詞の内容を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの作品を鑑賞し、物語の内容、登場人物の心情を理解しているか。</li> <li>リズムと旋律の関わりを理解し、互いに歌い、曲想や歌詞の内容を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌っているか。</li> </ul>	○	○	○	8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>鍵盤楽器(ピアノ、キーボード)に興味をもち、音階や和音(コード)の学習から、和音進行(コード進行)から旋律をつくる活動、音階から旋律をつくる活動に進み、自ら鍵盤楽器で弾いて表現の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽典の初歩として音階と和音(コード表)を鍵盤楽器を併用して学習する。</li> <li>鍵盤楽器に親しみをもち弾くことへの興味をもたせる。</li> <li>鍵盤楽器に慣れたのち、コード表から簡単な和音(コード)を弾けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽典の初歩として音階と和音(コード)を鍵盤楽器を併用して学習できたか。</li> <li>鍵盤楽器に親しみをもち弾くことへの興味をもったか。</li> <li>鍵盤楽器に慣れたのち、コード表から簡単な和音(コード)を弾けるようになったか。</li> </ul>	○	○	○	8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア地域の様々な音楽の特徴を理解し、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くとともに、諸外国の音楽に親しむ心情を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガムランなどアジア地域の音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解する。</li> <li>それぞれの音楽の共通点や違いについて考える。</li> <li>社会にとつての音楽の意味や価値について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガムランなどアジア地域の音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解したか。</li> <li>それぞれの音楽の共通点や違いについて考えたか。</li> <li>社会にとつての音楽の意味や価値について考えたか。</li> </ul>	○	○	○	4
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーの奏法を身につけ、楽曲の曲想やリコーダーの音色に親しみをもち、表現の工夫をして演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーの基本的な奏法(息づかいや指使いなど)、演奏表現に必要な技術を学習する。</li> <li>それぞれの楽曲の演奏を行い、互い(上下パート2人組)に聴き合いながら、楽曲の曲想やリコーダーの音色を作り出す奏法の間隔を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーの基本的な奏法(息づかいや指使いなど)、演奏表現に必要な技術を学習できたか。</li> <li>それぞれの楽曲の演奏を行い、互い(上下パート2人組)に聴き合いながら、楽曲の曲想やリコーダーの音色を作り出す奏法の間隔を理解したか。</li> </ul>	○	○	○	6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの奏者の演奏する役割をもって、互いにテンポやリズムや音量を感じ取りながら、アンサンブルを楽しみ、表現の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜から正確なリズムを読み取り(読譜)して表現をする。</li> <li>それぞれの役割(パートごとのリズム、メロディなど)を果たし、互いに聴き合いながら、テンポやリズムの調和を作り出す。</li> <li>楽曲の曲想について、互いに共通の意識をもって、音楽を作り出すようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜から正確なリズムを読み取り(読譜)して表現をしているか。</li> <li>それぞれの役割(パートごとのリズム、メロディなど)を果たし、互いに聴き合いながら、テンポやリズムの調和を作り出しているか。</li> <li>楽曲の曲想について、互いに共通の意識をもって、音楽を作り出しているか。</li> </ul>	○	○	○	8
合計							70

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅠ

教科： 外国語 科目： 英語コミュニケーションⅠ 単位数： 2 単位  
 対象学年組： 第 2 学年 A 組～ 組  
 教科担当者： (A組：箕輪 潤) ( 組： ) ( 組： ) ( 組： ) ( 組： ) ( 組： )  
 使用教科書： ( )

教科 外国語 の目標：  
**【知識及び技能】** 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。  
**【思考力、判断力、表現力等】** コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。  
**【主体的に学習に取り組む態度】** 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	書					
LESSON 6 : Machu Picchu  ●マチュ・ピチュについて、理解して考えを深めることができる。  ●マチュ・ピチュ／野菜についてやりとりしたり、旅行について発表したり、準備リストについてや便りを書くことができる。	LESSON 6 : Machu Picchu	○	○	○	○	○	○	○	13
	定期考査	○		○		○	○		1
LESSON 7 : Artificial Intelligence  ●AIについて、理解して考えを深めることができる。  ●ロボット／ペット／和食／AI製品についてやりとりしたり、本／AI製品について書くことができる。	LESSON 7 : Artificial Intelligence	○	○	○	○	○	○	○	13
	定期考査	○		○		○	○		1





## 令和5年度「総合的な探究の時間」の全体計画

## 1 「総合的な探究の時間」の校内での名称（実施学年ごとに記入する）

第1学年『人間と社会』 第2学年『総合（探究）』  
第3学年『総合（探究）』 第4学年『人間と社会』

## 2 学校の教育目標

- ① 学問を愛し、真理を探究する精神を養い、生涯を通し知性の向上に努めさせる。
- ② 情操を養い、明朗で清純な品性と礼節ある態度を培う。
- ③ 正義と平和を愛し、心身ともに健全で実行力のある人間を育成する。
- ④ 個性を伸長し、自主的精神を培うとともに、自己の社会性を自覚させる。

## 3 各学校において定める「総合的な探究の時間」の目標

- ① 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通してよりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。
- ② 学び方や考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に創造的に取り組む態度を育て、己の在り方・生き方を考える。

## 4 生徒・学校・地域の実態

- ① 本校在校生は、義務教育期の不登校経験者が多い。だからこそ学び方やものの考え方を身に付け、主体的創造的に取り組む姿勢やコミュニケーション能力を育みたいと願っている。
- ② 地域・保護者は、本校を丁寧な生活指導を実施する学校と認知し、入学後は心身ともに健康で望ましい生活習慣を育成して欲しいと願っている。

## 5 指導体制（実施学年ごとに記入する）

- ① 週時程への位置付け方（曜日・校時）及び授業時間数、単位数
 

1 学年	木曜日・3校時	1 単位時間45分とし、35単位時間
2 学年	木曜日・3校時	1 単位時間45分とし、35単位時間
3 学年	木曜日・3校時	1 単位時間45分とし、35単位時間
4 学年	木曜日・3校時	1 単位時間45分とし、35単位時間
- ② 授業時間確保の方法 特定の期間に集中して実施しない。
- ③ 校内の指導組織
  - 1 学年2人、2 学年1人、3 学年2人、4 学年1人、計6人の専任教員で担当する。
- ④ 学習の評価
  - 1 学年 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになったか。
  - 2 学年 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになったか。
  - 3 学年 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになったか。
  - 4 学年 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになったか。
- ⑤ 評価方法
  - 1 年 出席・意欲・取り組み・レポート・発表など総合的に評価する。
  - 2 年 出席・意欲・取り組み・レポート・発表など総合的に評価する。
  - 3 年 出席・意欲・取り組み・レポート・発表など総合的に評価する。
  - 4 年 出席・意欲・取り組み・レポート・発表など総合的に評価する。

## 6 育てようとする資質や能力及び態度

- ① 基礎基本を重視し、学び方やものの考え方を習得することを通して社会の状況に応じてその力を活用する。
- ② 横断的探究的学習を通して、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。
- ③ 自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

## 7 内容（学習対象、学習事項）（実施学年ごとに記入する）

- ① 『人間と社会』第1学年  
○自ら課題を設定し、それに対し調査・研究を行う横断的・総合的な講座
- ② 『総合（探究）』第2学年  
○1学年時に探究した課題を踏まえて、その内容を発展させ調査・研究を行う横断的・総合的な講座
- ③ 『総合（探究）』第3学年  
○2学年時に探究した課題を踏まえて、その内容を発展させ調査・研究を行う横断的・総合的な講座
- ④ 『人間と社会』第4学年  
人間と社会の学習の意義・ねらいや年間学習計画の確認をする。都立城北中央公園を中心にした「奉仕体験活動」、ネット時代・働くことの意義など本校の生徒に密着したテーマを取り上げ人間と社会について理解を深化させる。  
① 学習事項  
○興味関心を見出し、進路に応じた課題に取り組み、自ら学び考える資質や能力を育む。

## 8 学習活動

- ① 第1学年『人間と社会』  
自ら課題を設定し、それについて調査・研究を行っていく。また学校近隣の地域と連携した「奉仕体験活動」を実施し人間と社会について理解を深化させる。
- ② 第2、3学年『総合（探究）』  
生徒自身が課題を設定し、それについて調査・研究を行っていく。また進路について考えることや、職業について考えるために横断的・総合的な講座に取り組み、自己の在り方・生き方を探究する。
- ③ 第4学年 『人間と社会』  
人間と社会の学習の意義・ねらいや年間学習計画の確認をする。都立城北中央公園を中心にした「奉仕体験活動」、ネット時代・働くことの意義など本校の生徒に密着したテーマを取り上げ人間と社会について理解を深化させる。

## 9 指導方法

協働的な学習の充実を図り、個に応じた指導ができるように少人数構成にしている。

## 10 各教科等との関連

- ① 各科目・教科との連携を図るために教務部担当者及び副校長を中心に進度・学習内容の連絡会を継続的に実施する。
- ② 定期的に検証を加え授業力向上の校内研修を実施する。

## 11 外部との連携

- ① 本校ホームページ、Twitter等を活用して地域・保護者に広報し、年間2回の授業参観及び研究協議会を実施する。
- ② 城北中央公園管理センターとの連携を図る。

## 令和5年度「総合的な探究の時間」の年間授業計画

(2学年)

## 1 単位時間の時間 (45) 分 『総合 (探究)』

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	事前指導	講座内容・評価方法の説明	出席、意欲などを総合的に評価	2
		課題設定	1 学年の成果を踏まえ、自己の課題を考え、取り組む課題を設定させる。		3
	5	身の回りの地域について考える。	自分たち学校周辺について、情報を収集し整理・分析する。		
	6	社会貢献について考える。	身の回りの地域に対しての社会貢献について考える。		
	7	まとめ	1 学期に調査したことを振り返りまとめる。	3	
2	9	ガイダンス	調べ方ガイダンス・課題設定	出席、意欲、取り組みなどを総合的に評価	3
	10	調査・研究	設定した自己の課題について調査・研究を行う。		3
	11	調査・研究			4
	12	研究論文作成	研究論文を作成する。		4
3	1	研究発表	研究論文の作成及び発表。	出席、意欲、取り組みなどを総合的に評価	4
	2	振り返り	振り返りを行い、自己の取り組みの確認を行う。		4
	3	課題の設定	1 年間の取り組みをまとめ、次の課題を設定する。		2
配当時間数の合計					35